

「臨床婦人科産科」第 70 巻 総目次

2016 年（第 1 号～第 12 号）

数字は通巻頁数、（ ）は号数

今月の臨床

●難治性の周産期 common disease への挑戦 (1)

〈反復後期流・早産の治療〉

既往早産妊婦の管理—①頸管長測定・腔内洗浄の早産
予防効果

竹田 純・板倉 敦夫…………… 6

既往早産妊婦の管理—②プロゲステロン療法

原田 寛子・中井 章人…………… 13

既往早産妊婦の管理—③細菌性陰症・持続子宮内感染
の診断と治療

塩崎 有宏・齋藤 滋…………… 20

既往早産妊婦の管理—④抗炎症療法

幸村友季子・向 亜紀・谷口千津子

伊東 宏晃…………… 25

既往早産妊婦の管理—⑤乳酸菌療法

永松 健・藤井 知行…………… 31

絨毛膜羊膜炎に対する薬物療法の有効性と限界につ
いて

小谷 友美…………… 36

早産期の前期破水の治療戦略

兵藤 博信…………… 42

難治性頸管無力症の診断と治療—①開腹シロッカー法

明野 慶子・鯨島 浩…………… 49

難治性頸管無力症の診断と治療—②経腔的腹膜開放
式頸管縫縮術

大槻 克文…………… 54

腹式広汎性子宮頸部摘出術後妊娠の周産期管理の実際

春日 義史・松本 直・宮越 敬

田中 守…………… 62

〈FGR〉
重症 FGR の娩出時期

千田 英之・金杉 知宣・菊池 昭彦…………… 68

胎盤・臍帯異常と FGR

仲村 将光・長谷川潤一・関沢 明彦…………… 74

small for gestational age 児の短期的・長期的問題点

中村 友彦…………… 80

〈胎児機能不全〉

胎児心電図を用いた胎児状態評価—胎児心電図装置を
用いた新たな胎児心拍数モニタリングの試み

湊 敬廣・木村 芳孝・伊藤 拓哉

大塩 清佳・佐藤 尚明・西郡 秀和

八重樫伸生…………… 84

胎児機能不全の病態評価における胎児静脈系血流計測
の役割

石井 桂介…………… 90

内診指接着型胎児オキシメーターの開発

金山 尚裕・内田 季之・庭山 雅嗣…………… 96

〈妊娠高血圧症候群〉

反復性早期発症重症妊娠高血圧症候群の治療

森川 守…………… 106

既往常位胎盤早期剥離妊婦の管理

三谷 穰・松田 義雄…………… 111

●不妊女性に対する手術療法—適応・タイミングと手
技のコツ (2)

不妊女性に対する手術療法の位置づけ

長田 尚夫…………… 154

子宮腔内病変に対する子宮鏡検査・治療—子宮粘膜下
筋腫と子宮内膜ポリープを中心に

齊藤寿一郎・坂本 愛子・手島 薫…………… 166

卵管障害に対する卵管鏡

塩谷 雅英・苔口 昭次…………… 172

良性卵巣嚢腫

三ッ浪真紀子・藤原 敏博…………… 179

筋層内子宮筋腫

吉野 修・斎藤 滋…………… 184

軽度子宮内膜症

泉谷 知明・前田 長正…………… 190

重度子宮内膜症

明樂 重夫…………… 198

先天性の子宮形態異常

岡垣 竜吾…………… 205

子宮腺筋症

藤下 晃・平木 宏一・荒木 裕之…………… 211

帝王切開癒着症候群

谷村 悟・舟本 寛…………… 220

●産科大出血に慌てない!! (3)

「産科危機的出血への対応ガイドライン」の有用性と
限界

関 博之…………… 254

〈産科出血の止血処置〉	
uterine compression suture	
松原 茂樹	260
子宮内充填法	
近藤 英治・小西 郁生	270
子宮収縮薬	
金川 武司・光田 信明	279
IVR 動脈塞栓術	
五十嵐 豪・長谷川潤一・鈴木 直	286
フィブリノゲン療法	
牧野真太郎	292
トロンボモジュリン療法	
中島 義之・正岡 直樹	298
第Ⅶ因子（遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤）療法	
小林 隆夫	302
〈知っておくべき疾患別対処法〉	
産道損傷—頸管裂傷と腔壁血腫	
杉本 充弘	308
仮性動脈瘤	
山下 隆博	316
胎盤ポリープ	
平野 茉来・平池 修	321
●知りたい最新情報がすぐわかる！ 不妊・不育症診療パーフェクトガイド（4）	
1. 悪性腫瘍の妊孕性温存治療	
若年がん患者に対する妊孕性温存治療の適応と実施法	
林 篤史・林 正美・大道 正英	8
子宮頸がんに対する妊孕性温存手術の適応と注意点	
田中 京子・青木 大輔	15
子宮体がんに対する黄体ホルモン療法の適応と注意点	
牛嶋 公生	20
上皮性・非上皮性卵巢悪性腫瘍に対する妊孕性温存手術の適応と実施法	
佐藤 豊実	23
〈QA〉	
Q1. 乳がん患者に対して卵巢刺激を行う際には、どのようなことに注意が必要でしょうか？	
林 篤史・林 正美・大道 正英	29
Q2. 初経前であっても配偶子を採用・凍結することは可能でしょうか？	
林 篤史・林 正美・大道 正英	30
Q3. 広汎子宮頸部摘出術後に不妊治療を行う際にはどのようなスケジュールを立てればよいでしょうか？	
佐藤 卓・浜谷 敏生	31
Q4. 高度肥満の患者に対して黄体ホルモン療法を行う際には、抗凝固療法は必要でしょうか？	
牛嶋 公生	32
Q5. 抗がん剤の種類により卵巢機能への影響はどの程度異なるのでしょうか？	
佐藤 豊実	34
2. 不妊症の検査・診断	
《女性因子》	
基礎体温の評価法	
田村 博史	36
各種ホルモン測定の実施法と評価法	
高村 将司	40
インスリン抵抗性の検査と評価法	
岸 裕司	44
クラミジア検査の適応と診断法	
竹村 由里	48
染色体検査の適応と意義	
玉置 優子・片桐由起子	52
卵巢予備能の評価法	
岩瀬 明・滝川 幸子	56
卵胞発育モニタリングの実施法	
折坂 誠・福田 真・吉田 好雄	62
卵管疎通性検査の実施法と評価法	
森宗 愛菜・木村 文則・村上 節	66
頸管粘液検査の実施法と判定法	
福井 淳史・水沼 英樹	74
子宮鏡検査の適応と実施法	
原田 竜也	79
腹腔鏡検査の適応と実施法	
辻 勲・青木 稚人・万代 昌紀	84
《男性因子》	
精液検査の実施法と評価法	
伊熊慎一郎・田中 温	89
男性不妊のホルモン測定の実施法	
白石 晃司	95
男性不妊の遺伝子検査の適応と意義	
高 栄哲	99
陰嚢超音波検査・精管造影・精巣生検の適応と実施法	
小林 秀行	104
《共通》	
抗精子抗体検査の適応と実施法	
柴原 浩章・竹山 龍・杉山由希子	109
〈QA〉	
Q1. 黄体機能不全の判定はどのようにすればよいですか？	
田村 博史	118
Q2. ホルモン負荷試験は不妊スクリーニング検査で必要ですか？	
高村 将司	119
Q3. AMH が低い場合に、患者にどのような説明をす	

ればよいですか？	
岩瀬 明・滝川 幸子……………	120
Q4. 甲状腺機能の評価は不妊スクリーニング検査で必要ですか？	
高村 将司……………	121
Q5. PCOS の診断方法について教えてください	
岸 裕司……………	122
Q6. 不妊検査としての子宮内膜日付診の意義はありますか？	
田村 博史……………	123
Q7. 卵胞発育モニタリングで卵胞が見えない場合、どのように対処すればよいですか？	
折坂 誠・福田 真・吉田 好雄……………	124
Q8. 子宮卵管造影検査で卵管に異常がある場合には、体外受精に進むべきでしょうか？	
森宗 愛菜・木村 文則……………	126
Q9. 腹腔鏡検査でどのような所見がみられたら、その後の治療で体外受精を勧めるべきでしょうか？	
辻 勲・青木 稚人・万代 昌紀……………	128
3. 一般不妊治療：薬物療法	
クロミフェン療法の適応と実施法	
網田 光善・鈴木 聡子・永瀬 智……………	130
ゴナドトロピン療法の投与法の種類と特徴	
都築 朋子・吉村 智雄・岡田 英孝……………	134
ドパミンアゴニスト療法の適応・種類・実施法	
林 正美……………	138
PCOS 患者のメトホルミン療法の実施法と有効性	
高橋 俊文・松川 淳・永瀬 智……………	141
〈QA〉	
Q1. クロミフェンによる頸管粘液・子宮内膜への影響についてはどのように考え、対処すればよいのでしょうか？	
網田 光善・鈴木 聡子・永瀬 智……………	145
Q2. クロミフェン療法の副作用として上皮性卵巣悪性腫瘍はどの程度考慮すべきなのでしょうか？	
網田 光善・鈴木 聡子・永瀬 智……………	146
Q3. ゴナドトロピン製剤は LH の含有比が製剤によって異なりますが、どのように使い分ければよいのでしょうか？	
都築 朋子・吉村 智雄・岡田 英孝……………	147
Q4. 体重減少性無月経患者のゴナドトロピン療法がうまくいきません。有効な卵巣刺激法について教えてください	
都築 朋子・吉村 智雄・岡田 英孝……………	148
Q5. 低用量 FSH 療法とは、どのようなプロトコルなのでしょうか？	
都築 朋子・吉村 智雄・岡田 英孝……………	150
Q6. 血清プロラクチンはいつ測定すべきでしょうか？	
また、血清プロラクチン値が正常な症例にドパミンアゴニスト療法は有効でしょうか？	
林 正美……………	151
Q7. メトホルミン療法は、インスリン抵抗性のない痩せた PCOS 症例や多嚢胞性卵巣のみの high responder 症例にも、効果があるのでしょうか？	
高橋 俊文・松川 淳・永瀬 智……………	152
Q8. レトロゾールは PCOS 症例に対しても有効でしょうか？	
高橋 俊文・松川 淳・永瀬 智……………	153
4. 一般不妊治療：手術療法	
卵管近位・遠位閉塞病変に対する治療方針	
末岡 浩……………	156
不妊を主訴とする子宮内膜症への手術療法の適応と注意点	
出浦伊万里・東 幸弘・原田 省……………	161
不妊を主訴とする子宮筋腫・腺筋症に対する治療方針	
谷口 佳代・泉谷 知明・前田 長正……………	165
PCOS に対する腹腔鏡下卵巣多孔術の適応と実際	
福原 理恵・福井 淳史・水沼 英樹……………	170
〈QA〉	
Q1. 卵管閉塞に対して卵管鏡と体外受精のどちらを選択するか基準を教えてください	
末岡 浩……………	174
Q2. 卵巣チョコレート嚢胞の摘出の際に卵巣機能低下を避ける方法はあるのでしょうか？	
出浦伊万里・東 幸弘・原田 省……………	175
Q3. 卵巣チョコレート嚢胞の際に、嚢胞摘出と不妊治療のどちらを優先すべきでしょうか？	
出浦伊万里・東 幸弘・原田 省……………	176
Q4. 子宮内膜ポリープ、粘膜下筋腫がある場合、子宮鏡下の病巣摘出と不妊治療のどちらを優先すべきでしょうか？	
谷口 佳代・泉谷 知明・前田 長正……………	177
Q5. 子宮内腔に変形のない筋腫を認めた場合、手術を勧めるべきでしょうか？	
谷口 佳代・泉谷 知明・前田 長正……………	179
Q6. 子宮腺筋症核出が不妊症を改善するエビデンスはあるのでしょうか？	
谷口 佳代・泉谷 知明・前田 長正……………	180
Q7. PCOS に対する腹腔鏡下卵巣多孔術後は自然排卵はどのくらいの周期期待できるとインフォームド・コンセントすべきでしょうか？	
福原 理恵・福井 淳史・水沼 英樹……………	181
5. 人工授精	
配偶者間人工授精の適応と実施法	
都竹 理……………	185
提供精子を用いた人工授精の適応と実施法	

久慈 直昭・長谷川朋也・大石 康文 小島 淳哉・長谷川 瑛・伊東 宏絵 井坂 恵一	192	Q2. アンタゴニストを用いた調節卵巣刺激法の特徴と メリットを教えてください 桑原 章	276
精子凍結保存の適応と実施方法 宮本 敏伸・安孫子公香・千石 一雄	198	Q3. 採卵時の出血に対する対処法を教えてください 長田 尚夫・加藤 恵一・寺元 正吉 永石 匡司	277
〈QA〉 Q1. 人工授精における精子調整の留意点について教えて ください 都竹 理	202	Q4. 採卵後に付属器膿瘍をきたした既往のある患者に は、どのような採卵方法がよいのでしょうか？ 長田 尚夫・加藤 恵一・寺元 正吉	280
Q2. 非配偶者間人工授精の実施施設に患者を紹介する 場合の留意点について教えてください 久慈 直昭	203	Q5. 良好胚の選別方法について教えてください 橋本 周	282
Q3. 精子を凍結するにあたって最も注意すべきことを 教えてください 宮本 敏伸・安孫子公香・千石 一雄	204	Q6. rescue ICSI で良好胚を獲得するコツを教えてく ださい 中山 貴弘	283
Q4. 凍結精子の管理はいつまで行えばよいのしょう か？ またその際に費用などはかかりますか？ 宮本 敏伸・安孫子公香・千石 一雄	205	Q7. 薄い子宮内膜による着床不全を改善する薬物療法 には、どのようなものがあるのでしょうか？ 東口 篤司	285
Q5. 抗がん剤による化学療法を行った患者さんは、凍 結精子を用いた治療以外に将来子どもができる可 能性はないのですか？ 宮本 敏伸・安孫子公香・千石 一雄	205	Q8. アシストハッチング法のデメリットについて教え てください 矢野 浩史・久保 敏子	287
6. 生殖補助医療 調節卵巣刺激法の種類と特徴 桑原 章	208	Q9. 顕微授精時の精子の選別法について教えてください 中山 貴弘	288
採卵の方法とコツ 長田 尚夫・加藤 恵・寺元 章吉	215	Q10. ホルモン補充周期での胚移植法は絨毛膜下血腫の リスクが高まるのでしょうか？ 向田 哲規・田中 勝洋・高橋 克彦 岡 親弘	290
胚培養の方法とコツ 橋本 周	222	Q11. IVM-IVF 法における胚のリスクについて教えて ください 福田 愛作	291
アシストハッチング法の方法とコツ 矢野 浩史・久保 敏子	227	Q12. 遺伝性疾患の着床前診断希望者を施行施設に紹介 する場合には、どのような点に留意すべきでしょ うか？ 浜之上はるか	292
顕微授精の方法とコツ 中山 貴弘	232	7. 男性不妊症の治療 男性不妊症に用いられる薬物療法の種類 と実施法 飯島 将司	294
胚移植法の方法とコツ 加藤 恵一・長田 尚夫・寺元 章吉	237	精索静脈瘤根治術の適応と有効性 奥野 博	298
黄体補充療法の種類と特徴 藤原 敏博	247	microdissection TESE の適応と実施法 岡田 弘	305
胚凍結法および凍結胚移植法の種類と特徴 向田 哲規・田中 勝洋・高橋 克彦 岡 親弘	253	〈QA〉 Q1. 精巣内精子の有効な保存法を教えてください 飯島 将司	308
IVM-IVF の実施法と成績 福田 愛作	260	Q2. 逆行性射精の精子採取法のコツを教えてください 奥野 博	309
遺伝性疾患の着床前診断の適応と実施法 浜之上はるか	269	Q3. conventional TESE と microdissection TESE の 使い分けを教えてください	
〈QA〉 Q1. ギナトトロピン反応不良例には、どのような調節 卵巣刺激法が有効でしょうか？ 桑原 章	275		

岡田 弘	311	青木 耕治	381
8. 不育症の検査・診断		Q2. 免疫グロブリン療法は有効ですか？ また実施する としたら注意点は何か？	
不育症の検索手順		山田 秀人	383
中山 敏男・永松 健	314	Q3. 不育症に漢方療法は有効ですか？	
不育症の遺伝学的要因		高桑 好一・能伸 太郎	386
杉浦 真弓・佐藤 剛・尾崎 康彦	320	●糖尿病が女性ヘルスケア・がんに与えるリスク (5)	
抗リン脂質抗体症候群の診断法と不育症への影響の考 え方		糖尿病の最近の動向	
佐藤 善啓・杉 俊隆	326	宮里 舞・和栗 雅子	362
子宮奇形の不育症への影響と検査		糖尿病治療は何か変わったか？	
竹下 俊行	331	弘世 貴久	368
子宮頸管無力症の診断法		〈糖尿病と思春期・成熟期のヘルスケア〉	
板倉 敦夫	335	PCOS と卵巣機能	
内分泌代謝異常による不育症の診断法		甲村 弘子	375
和泉俊一郎・高橋 千果・篠田 真理	339	インスリン抵抗性をもつ不妊・月経異常の治療	
単回流産および反復・習慣流産がもたらす精神的影響		佐久本哲郎・寺田 陽子・徳永 義光	380
丸山 哲夫・各務 真紀	343	〈糖尿病と中高年期のヘルスケア〉	
〈QA〉		閉経が糖尿病に与える影響・糖尿病が閉経に与える影 響	
Q1. 不育症カップルの染色体検査の際の遺伝相談のポ イントは何でしょうか？		寺内 公一	387
杉浦 真弓・佐藤 剛・尾崎 康彦	347	インスリン抵抗性をもつ中高年女性へのホルモン補充 療法の適応とポイント	
Q2. 着床前診断と着床前スクリーニングの臨床的意義 と問題点、方法について教えてください		篠原 康一	392
竹下 俊行	348	〈糖尿病と婦人科がん〉	
Q3. 血液凝固因子検査の意義は、どのようにとられ ばよいのでしょうか？		糖尿病とがんを結ぶメカニズム	
佐山 晴亮・永松 健	351	佐々木 浩	398
Q4. 抗ホスファチジルエタノールアミン抗体、抗ホス ファチジルセリン抗体検査の意義はどのようにと らえればよいのでしょうか？		糖尿病が子宮体がんの病態・予後に与えるリスク	
佐藤 善啓・杉 俊隆	353	辻 圭太・新倉 仁	406
Q5. ナチュラルキラー活性検査の意義は、どのよう にとらえればよいのでしょうか？		糖尿病が卵巣がんの病態・予後に与えるリスク	
鮫島 梓・齋藤 滋	356	平田 幸広・矢内原 臨・岡本 愛光	411
9. 不育症の治療		糖尿病患者における周術期管理—血栓症、創傷治癒、 感染症の予防管理など	
頸管縫縮術の適応と有効性		中尾 砂理・加藤 敬・佐藤 豊実	417
安藤 智・大槻 克文	360	〈最近の話題〉	
抗リン脂質抗体症候群への抗血栓・抗凝固療法の実施 法と留意点		メトホルミンの抗がん作用	
兵藤 博信	365	清野 学・太田 剛・永瀬 智	423
tender loving care の方法と有効性		●若年女性の外来診療に役立つ基礎知識 (6)	
中塚 幹也	372	ターナー症候群	
続発性不育症への対処法		粒来 拓・榊原 秀也	462
田知本 (川口) 里恵・山本 瑠伊・鈴木美智子	376	先天性性ステロイドホルモン産生異常症	
〈QA〉		久具 宏司	467
Q1. 夫リンパ球免疫療法は有効ですか？ また実施す るとしたら注意点は何か？		性同一性障害	
		中塚 幹也	475
		中枢性月経異常	
		岩佐 武・松崎 利也・苛原 稔	481
		月経痛の診断と治療	
		綾部 琢哉	486
		ピル処方の適応と留意点	

西瀧 優子・安達 知子	493
月経周期調整法	
田坂 慶一	502
性感感染症—クラミジアと淋菌	
岩破 一博	507
子宮頸部病変	
宮城 悦子・鈴木 幸雄・川野 藍子	
最上 多恵	514
外陰部病変	
笹川 寿之	520
スポーツ性月経異常	
難波 聡	527
食生活と性機能	
藤原 智子	533
●胎児心拍数モニタリング パーフェクトマスター (7)	
〈Overview〉	
胎児心拍数モニタリング発展の歴史	
濱田 真一・土田 充・村田 雄二	570
〈知っておくべき基本的知識〉	
胎児心拍数モニタリングの用語と定義	
村林 奈緒・池田 智明	578
non stress test (NST) による胎児 well-being の評価	
藤森 敬也・小島 学・野村 真司	582
biophysical profile scoring (BPS) の定義と対応	
小松 篤史	588
〈胎児心拍数波形の読み方と対応〉	
基線細変動発生の仕組みと異常の評価	
池ノ上 克	594
変動—過性徐脈の発生の仕組みと対応	
三谷 穰・松田 義雄	600
遅発—過性徐脈の発生の仕組みと対応	
千田 英之・金杉 知宣・菊池 昭彦	609
特殊な胎児心拍数波形の特徴と意義	
鮫島 浩	616
産科医療補償制度事例における胎児心拍数モニタリングの問題点	
高橋 恒男	621
〈未来へのトピック〉	
一次施設を組み込んだ胎児心拍数モニタリング監視システムの構築と周産期予後	
道方 香織・鮫島 浩	628
位相差トラッキング法を用いた胎児脈圧計測の試み	
室本 仁・室月 淳	634
遠隔胎児監視システム構築のための胎児心拍陣痛テレメーター送信機の試作	
竹内 康人	641

●婦人科悪性腫瘍規約改訂のポイントと対応—「何が」「なぜ」「どのように」変わったのか (8)	
〈子宮頸部病変〉	
WHO 2014 年 子宮頸部病変の改訂のポイント	
森谷 卓也・稲吉 貴絵・鹿股 直樹	686
子宮頸部腺癌および腫瘍類似腺病変の病理	
三上 芳喜	692
子宮頸部嚢胞性病変の治療と管理	
鹿島大靖・塩沢 丹里	700
〈子宮体部病変〉	
WHO 2014 年 子宮体部病変の改訂のポイント	
津田 均	705
子宮体癌の治療と管理	
田中 智人・大道 正英	713
間葉系腫瘍・癌肉腫の治療と管理	
笠松 由佳・安部 正和・平嶋 泰之	719
〈卵巣腫瘍〉	
WHO 2014 年 卵巣腫瘍の改訂のポイント	
清川 貴子	726
卵巣漿液性癌の新しい概念	
京 哲・中山健太郎	732
卵巣がん・卵管がん・原発性腹膜がんの FIGO 進行情形分類 2014 の要点と臨床的意義	
小宮山慎一	741
〈外陰癌〉	
外陰癌日産婦学会進行情形 2014 年と治療ガイドライン 2015 のポイント	
齋藤 俊章	748
〈絨毛性疾患〉	
WHO 2014 年 絨毛性疾患改訂のポイント	
福永 真治	756
●卵管は脇役か？—その生理と病態 (9)	
〈卵管の生理〉	
発生と解剖	
浅野 安信・有澤謙二郎・萩原 治夫	794
女性生殖器における免疫機能と卵巣ホルモンの関連	
カーン カレク・岩佐 弘一	801
卵の取り込みと受精卵の輸送	
石 東博・小松 紘司・藤森 俊彦	810
〈卵管の病理〉	
卵管炎—診断と治療	
野口 靖之	817
卵管瘤水腫—不妊症での取り扱い	
田島 博人・浅田 弘法	823
卵管妊娠—機序と病態	
藤下 晃・梶村 慈・平木 宏一	829
卵管鏡下卵管形成術—適応と成績	
末岡 浩	837

傍卵巣腫瘍—発生と病態	佐々木 浩……………1012
土谷 聡・西井 修……………842	〈予防〉
卵管癌—発癌機構と取り扱い	食事・運動
本原 剛志・片渕 秀隆……………848	岩本 潤……………1018
●胎児発育不全 (FGR) の管理 Up To Date (10)	〈治療〉
〈病態の最新知見〉	骨粗鬆症治療薬の作用機序—製剤の特徴からみた薬剤選択
FGR における胎児行動の変化と評価	岡野 浩哉……………1022
諸隈 誠一・前原 佳奈・大川 彦宏	エストロゲン製剤
加藤 聖子……………894	松下 宏・若槻 明彦……………1030
FGR 児における羊水量の評価	ビスホスホネート
小松 篤史……………900	森重健一郎・杉山三知代……………1036
FGR 出生児の神経学的予後	選択的エストロゲン受容体作動薬 (SERM)
國方 徹也……………908	野崎 雅裕……………1042
〈原因別にみた管理の実際〉	副甲状腺ホルモン薬
《母体要因》	倉林 工……………1050
母体膠原病による FGR の予防と管理	抗 RANKL 抗体 (デノスマブ)
吉田 幸洋……………913	安井 敏之・松井寿美佳……………1058
妊娠高血圧症候群における FGR の管理	●卵胞発育を理解する—知っておくべき基礎知識 (12)
近澤 研郎・牛嶋 順子・高木健次郎……………920	〈卵胞発育の生理〉
母体糖代謝異常における FGR	視床下部による卵胞発育制御機構
内倉 友香・杉山 隆……………926	井上 直子・東村 博子・上野山賀久……………1094
《胎児要因》	ゴナドトロピンの作用機序
先天性心疾患における FGR の評価	岸 裕司……………1098
山本 祐華……………932	卵胞発育と卵子・顆粒膜細胞・莢膜細胞の相互応答
FGR を伴う先天性サイトメガロウイルス感染の診断と	折坂 誠・白藤 文・玉村 千代……………1104
管理—出生児の神経学的予後を含めて	卵胞発育と卵成熟
森岡 一朗・西田 浩輔・山田 秀人……………938	島田 昌之・川合 智子・星野由美……………1110
《臍帯・胎盤要因》	〈卵胞発育異常の病態と治療〉
臍帯異常による FGR の評価	多嚢胞性卵巣症候群
仲村 将光・大場 智洋・関沢 明彦……………945	矢野 清人・松崎 利也・苛原 稔……………1117
胎盤限局性モザイクによる FGR	内分泌疾患と排卵障害
三浦 清徳・増崎 英明……………951	百枝 幹雄……………1124
〈娩出時期の決定法〉	チョコレート嚢胞と卵胞発育障害
胎児循環評価からみた FGR の適切な娩出時期の決定	北島道夫・増崎英明……………1130
—古くて新しい臍帯動脈血流の解釈	早発閉経
岩垣 重紀・志賀 友美・千秋 里香	河村 和弘……………1137
高橋雄一郎……………961	排卵異常と漢方治療
●骨粗鬆症の最新トピックス—ガイドラインの大幅改訂を迎えて (11)	蔭山 充・中井 恭子・浮田 勝男
骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版改訂のポイント	阪本 知子・今中 基晴・古山 将康……………1143
五來 逸雄・堀 裕雅……………994	
〈原因ごとの病態〉	術後のヘモグロビン値低下を用いた TVM 手術ラーニングカーブの検討
生活習慣病と骨粗鬆症	三木 明德・木村真智子・新澤 麗
高橋 一広……………1001	仲神 宏子・佐藤加寿子・鈴木 元晴
アスリートにおける骨粗鬆症	難波 聡・梶原 健・岡垣 竜吾
寺内 公一……………1007	永田 一郎・石原 理……………443 (5)
婦人科がん治療による骨粗鬆症	

当院で加療した妊娠中の付属器腫瘍の茎捻転 13 例の検討

大竹 紀子・前田 裕斗・柳川 真澄
山添紗恵子・日野 麻世・松林 彩
林 信孝・宮本 泰斗・小山瑠梨子
富田 裕之・池田裕美枝・上松 和彦
青木 卓哉・今村 裕子・星野 達二
吉岡 信也…………… 551 (6)

女子大学生における食生活と月経困難症との関連に関する検討

秦 幸吉・野津 朱里・川谷真由美
名和田清子…………… 1079 (11)

症例

帝王切開術後に持続する頭痛より判明した慢性硬膜下血腫の 1 症例

内藤 子来・福岡 実・呉 佳恵
武信 尚史・脇本 栄子・松田 孝之
…………… 139 (1)

術前診断しえた Wunderlich 症候群の 1 例

山下 萌・望月 慎介・堀 聖奈
萩野 恭子・浜名 伸也…………… 347 (3)

Edwardsiella tarda による子宮付属器膿瘍からの敗血症性ショックをきたした 1 例

山下亜貴子・中田 俊之・林 博章
山岸 昭夫…………… 557 (6)

血小板減少を伴う分類不能型免疫不全症合併妊娠の 1 例

成富 祥子・津戸 寿幸・安田 美樹
太田沙緒里・多賀紗也香・佐藤奈菜香
村上 法子・伊藤 雅之・亀谷 英輝
…………… 673 (7)

初回治療 17 年後に悪性転化した卵巢粘液性境界悪性腫瘍の 1 例

赤澤 宗俊・横山 幹文・瓦林 靖広
…………… 773 (8)

卵巢腫瘍茎捻転腹腔鏡手術後に診断に至った閉経前卵巢悪性腫瘍 2 症例の検討

濱田 萌・武内 享介・白國あかり
山下 詩乃・吉田 愛・武田 晃子
杉本 誠・辻野 太郎…………… 779 (8)

当院において腹腔鏡下仙骨腔固定術を施行し術前診断しえなかった卵巢病変を病理学的に認めた 2 例

吉新明日香・山本 直子・秋野 なな
福田 晋也・真壁 友子・平野 茉来
浦田 陽子・泉 玄太郎・原田美由紀
田中麻理子・林 玲匡・池村 雅子
平田 哲也・廣田 泰・甲賀かをり

平池 修・深山 正久・藤井 知行

大須賀 穰…………… 873 (9)

子宮全摘 16 年後に肺, 肝, 骨転移をきたした子宮平滑筋肉腫の 1 例

山田 新尚・安見 駿佑・島岡 竜一
大塚かおり・鈴木真理子・佐藤 泰昌
横山 康宏・浅野 文祐・清水 省吾
岩田 仁・森 美奈子・古井 達郎

森重健一郎…………… 879 (9)

巨大卵巢腫瘍により顕在化した右横隔膜ヘルニア嵌頓, 絞扼性イレウスの 1 例

藤田 久子・木村 博昭・片山 恵里
糸井 瑞恵・新井 未央・神山 正明
小林 壮一・平敷好一郎…………… 979 (10)

産褥期に発症したすべての培養検査陰性であった無菌性感染性心内膜炎の 1 症例

坪倉 弘晃・笠松 敦・生駒 洋平
樫木 晋・岡田 英孝…………… 1165 (12)

開腹子宮筋腫核出術後に仮性動脈瘤を生じ, 全腹腔鏡下子宮全摘術を行い, 病理結果で低悪性度内膜間質肉腫と判明した 1 例

田邊康次郎・佐々木 恵・佐々木恵里奈
松本沙知子・嶋田 未知・笹瀬 亜弥
大山 喜子・赤石 美穂・早坂 篤
大槻 健郎…………… 1171 (12)

臨床経験

腹腔鏡下手術におけるセプラフィルム®貼付の工夫 — Paper-Roll technique, Cylinder-Roll technique

瀬尾 晃平・石川 哲也・三村 貴志
宮本 真豪・森岡 幹・関沢 明彦
…………… 667 (7)

FOCUS

卵子の若返りはどこまで可能か?

井田 守・森本 義晴…………… 119 (1)
婦人科癌リンパ節転移の術中迅速遺伝子診断
新倉 仁…………… 227 (2)

多様化していく家族形態

石原 理…………… 334 (3)
婦人科腫瘍におけるセンチネルリンパ節生検の可能性
寺井 義人・田中 智人・大道 正英
…………… 433 (5)

産婦人科領域の新専門医制度の概要

吉川 裕之…………… 650 (7)

子宮内発症胎児中枢神経系障害の病態と診断

岡 明…………… 866 (9)

バースセンターの現況と展望

森田 知子・近藤由理香・岩下 光利	1154 (12)
-------------------	-----------

教訓的症例から学ぶ

産婦人科診療のピットフォール

妊娠 36 週に腔外脱出した巨大子宮頸部筋腫内への大量出血により胎児心拍数モニタリング異常を呈した症例	
多田 克彦・立石 洋子・原 紗耶	126 (1)
卵巣腫瘍術後に骨盤内感染性リンパ嚢胞が発生し間欠性跛行を呈した症例	
皆川 幸久・上垣 憲雅	234 (2)
子宮動脈塞栓術やメトトレキサート投与を実施したにもかかわらず子宮摘出に至った子宮頸管異所性妊娠の 1 例	
香城 恒磨	326 (3)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術後のドレーン挿入部に発生したポートサイトヘルニアの 1 例	
村上 勇・倉兼さとみ・西川隆太郎	428 (5)
長期間観察していた子宮内膜症の術後に突然 S 状結腸穿孔および汎発性腹膜炎を発症した 1 症例	
齊藤 俊雄	540 (6)
閉経後の子宮頸部細胞診異常に対して子宮全摘術を施行後に腔上皮内腫瘍が発生した 1 例	
北條 智	659 (7)
卵巣がんの術後診断で治療したがその後に大腸がんを判明した症例	
幅田周太郎・横山 和典・藤岡 保範	764 (8)
ヘパリン起因性血小板減少症と脳梗塞を併発した肺血栓塞栓症合併卵巣癌の 1 例	
窪田 興志・鈴木 理絵・向田 一憲	858 (9)
子宮動脈塞栓術施行後 2 日で血流が再開し、再塞栓術を行った子宮頸管妊娠の 1 例	
田村 充利・上田江里子	968 (10)
筋層浸潤はごくわずかな子宮内膜癌であったが骨盤センチネルリンパ節に微小転移があり対側の傍大動脈リンパ節に転移を認めた 1 例	
山下 剛・西澤 庸子・下山 則彦	1068 (11)

TVM 手術後に尿管狭窄による水腎症を発症した 1 例	
幸本 康雄	1148 (12)

Obstetric News (武久 徹)

早産の予知と予防 (3) 一切迫早産の治療	113 (1)
早産の予知と予防 (4) 子宮頸管長計測スクリーニングを全例に行うか?	240 (2)
妊娠初期の SSRIs 曝露と流産リスク	340 (3)
妊娠中の抗うつ薬と心奇形リスク	440 (5)
緊急避妊—米国産婦人科学会 2015 年	545 (6)
骨盤位外回転術	657 (7)
骨盤位外回転術①	770 (8)
骨盤位外回転術②—米国産婦人科学会医療技術情報より	855 (9)
片頭痛と経口避妊薬使用 (1) —症例	975 (10)
片頭痛と経口避妊薬使用 (2) —米国産婦人科学会 & 避妊使用に関する米国医療適格基準	1076 (11)
片頭痛と経口避妊薬使用 (3) —日本のガイドライン	1160 (12)

Estrogen Series (矢沢珪二郎)

外傷性脳損傷とプロゲステロン (1)	135 (1)
外傷性脳損傷とプロゲステロン (2)	239 (2)
卵巣予備機能のテストとその解釈—米国生殖医学学会の Practice Committee による意見	344 (3)
経口避妊薬 (ピル) の使用と死亡率の関連—Nurses Health Study のコホートを 36 年間前方視的にフォローした結果	442 (5)
更年期後のホルモン療法とその長期的アウトカム	548 (6)
WHI: それ以前と以後のホルモン療法	665 (7)
緊急避妊法 (Emergency Contraception)	772 (8)
エストロゲン依存性の乳癌既往のある女性に対する経腔エストロゲンの使用—ACOG Committee Opinion # 659 March 2016	871 (9)
更年期後のホルモン療法と動脈硬化症	977 (10)
卵巣癌防止のための卵管切除術—ACOG Committee Opinion No.620	1078 (11)
更年期療法はもっと積極的になされるべきではないか?	1162 (12)